

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長

様式第13号

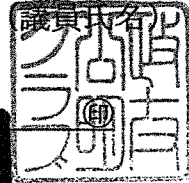
平成30年1月23日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名

政友公明クラブ

富樫 正 毅



政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	平成30年1月18日
参加者氏名	秋葉雄 黒井浩之
場所・会場	酒田市山居町 山形放送酒田支社
内容(目的)	○庄内県勢懇話会 「2018年の政局展望」 講師：名古屋外国語大学 高瀬淳一教授
調査・研修の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年に消費税10%、2020年にオリンピックがある。 ・オリンピックが終わったら景気が下降局面。秋に政治的な山場がくる。 ・生産人口は2012年6500万人⇒2020年6200万人、8年で300万人生産人口減る ・国が上か、個人が上かのイデオロギー対立がくる。立憲民主党は「個人」「左派」「文化」「自由」を標榜していて、昔の労働組合的なものとは違う ・優秀な議員がいないと自治体間競争に負ける。議員は大きく変えるエネルギーの源。無投票の選挙があるが、いったん絞り込んで無競争をなくすべき。 ・人を減らして報酬を倍にしたいが、市民感情からそうはならない。公益のために働いているのだろうという人がでてくる。 ・イギリスはもともとボランティアなもの。米国は少ない。ロサンゼルスは350万都市で15人、シアトルは57万都市で9人。

(※) 自家用車を利用した場合は、「車賃(ガソリン代)内訳書」を提出して下さい。



2018年の政局展望

庄内県勢懇話会 1月例会
名古屋外国語大学教授 高瀬淳一

1 安倍政権を展望する！

- ・安倍3選＝過去50年間の最長政権へ
→ 次の山場はいつか？
- ・アベノミクスと2018年の景気
→ 「いざなぎ」も「いざなみ」も抜く
- ・目指すは「戦後レジームからの脱却」
→ イデオロギー政治の時代が到来
- ・強さの理由は安定感
→ 議席の多数＋支持の多数

2 政党政治を展望する！

- ・1強多弱は「小沢政治の終焉」
→ 2大政党制の無理。「第3極」の難しさ。
- ・選挙制度は見直しが必要

3 地方政治はどうあるべきか？

- ・人口減少による地方政治の機能低下
→ 地方議員は少なくして、兼業OKに。

..... (メモ欄)

係	係	係	係	係	係	係	係

様式第12号

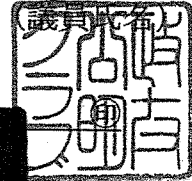
平成30年1月16日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名

政友公明クラブ

富樫正毅



政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	平成30年1月30日 ~ 平成30年2月1日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	東京都荒川区 荒川区役所 茨城県常総市 常総市役所
内容(目的)	・東京都荒川区 荒川区民総幸福度に関する取り組みについて ・茨城県常総市 平成27年関東東北豪雨災害について 議会としての災害対応について
交通手段	自家用車・JR・飛行機・レンタカー
行 程	別紙「行政視察(案)」のとおり

(※) 調査・研修の終了後は、「政務活動費調査・研修報告書」を提出して下さい。

自家用車を利用した場合は、「車賃(ガソリン代)内訳書」を提出して下さい。



平成29年度 鶴岡市議会 政友公明クラブ行政視察（案）

月日	行 程	備 考
1 月 30 日 (火)	<p>9:20 11:04/11:19 13:28 鶴岡駅……新潟駅……東京駅……高田馬場駅……宿舎 いなほ6号 とき318号 中央線・山手線</p> <p>【宿泊先】 ホテルサンルート高田馬場 ☎03-3232-0101 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-27-7</p>	
1 月 31 日 (水)	<p>9:15 9:20 9:40 9:45 10:00～11:30 宿舎…高田馬場駅…日暮里駅・北改札口…【荒川区役所】… 山手線 (16分) ※荒川区議会様の送迎有</p> <p>14:41 14:49/15:04 15:44/15:54 16:04 (昼食) 日暮里駅…秋葉原駅……守谷駅……水海道駅…宿舎 山手線 つくばエクスプレス 関東鉄道常総線</p> <p>【宿泊先】 ホテルルートイン水海道駅前 ☎0297-30-0101 〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町1555-2</p>	
2 月 1 日 (木)	<p>9:40 10:00～11:30 宿舎… (移動) …【常総市役所】… (移動・昼食) … 徒歩 (10分)</p> <p>13:22 13:32/13:38 14:10/14:24 14:28 水海道駅……守谷駅……秋葉原駅……東京駅 関東鉄道常総線 つくばエクスプレス 山手線</p> <p>15:16 17:04/17:17 19:12 東京駅……新潟駅……鶴岡駅 とき327号 いなほ9号</p>	

視察項目

1. 東京都荒川区
荒川区民総幸福度に関する取り組みについて
2. 茨城県常総市
 - ① 平成27年関東東北豪雨災害について
 - ② 議会としての災害対応について

係	専門員	係	王	査	王	幹	局	長	副議長	議長

様式第13号

平成30年3月26日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名 (議員氏名)
 政友公明クラブ
 富 樫 正 毅

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	平成30年1月30日 ～ 平成30年2月1日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	東京都荒川区 荒川区役所 茨城県常総市 常総市役所
内容(目的)	・東京都荒川区 荒川区民総幸福度に関する取り組みについて ・茨城県常総市 平成27年関東東北豪雨災害について 議会としての災害対応について
調査・研修 の 概 要	<p>全国には様々なランキングがあるが、荒川区において実施している総幸福度調査の概要について学んだ。</p> <p>また、平成27年9月に豪雨災害で被災した常総市防災担当者より災害時の対応や問題点、議会の対応状況について学んだ。</p> <p>総幸福度調査については、調査の内容について本市の自治体運営にとって必要な指標であり、大いに参考とすべきである。</p> <p>常総市防災担当者から話を聞き、本市においても他市の経験から学び、防災資機材の充実はもとより市民と一体となった防災訓練を積み重ねていくことが重要であると感じた。また、議会の関わり方についても学ぶ貴重な機会であり、本市にも取り入れていきたい。</p>

(※) 自家用車を利用した場合は、「車賃 (ガソリン代) 内訳書」を提出して下さい。



行政視察報告書

報告者 秋葉 雄

視察先 東京都荒川区

視察項目 荒川区民総幸福度に関する取り組みについて

日時 平成30年1月31日（水）午前10時～正午

視察参加者 富樫正毅
中沢洋
秋葉雄
黒井浩之

1、事業の目的

荒川区では、区政のドメインを「区政は区民を幸せにするシステムである」と定めている。

区政の究極の目的は、区民の幸せの実現であり、区では区民を幸せにするシステムとして、組織的かつ系統的な行政サービスを通じて、幸せを増やし、不幸を減らす取り組みを進めていくことにより、誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築いていくことを目的とした事業である。

2、事業経過

別添、荒川区自治総合研究所の活動年表（資料1）を参照

3、幸せリーグの設立（平成25年6月5日）

誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会の実現を目指して、同様の問題意識を共有する基礎自治体同士のネットワークとして荒川区長が提唱して実現した。

現在、加入自治体は96自治体となっており、北海道から九州まで全国に及んでいる。活動内容等については別紙幸せリーグ入会のご案内、（資料2）を参照

4、荒川区民総幸福度指標

何を「幸せ」と感じるかは人それぞれであるが、区民がどれだけ幸せを感じているかを調べ、幸せでないと感じている点があればその原因を探し、課題の解決に向けた検討をすすめる。そうした調査の指標を用いてアンケート調査を実施している。

5、調査結果の分析、幸福度向上策の検討

調査アンケートの質問文一覧、アンケート結果の集約分析、幸福度向上策については、別紙レポート（資料3）を参照

6、所感

東京都の下町を中心に江戸時代からの歴史と伝統を持つ荒川区で、区民の総幸福度を増大するために、一定の指標を掲げてアンケート調査を実施し、多角的かつ中長期的な視点に立って事業を実施している点に新鮮な感動を受けた。民間では顧客の満足を第一に考えて、経営にあたる手法が定着しており、顧客に満足を与えることができない事業体は市場から退場するしかない厳しい現実がある。本来であれば行政サービスを提供することが役割である基礎的な自治体においても住民満足度を向上させることができないければ倒産するのが当然のことである。現在の日本においては、自治体が倒産するという事は法制度上あり得ないが、社会の仕組みがそうなっているからと言って、自治体の運営に携わる者はこうした緊張感をもって自治体運営にあたらねばならないはずである。

平成23年に、ブータンの国王夫妻が日本を訪れ、同国の総幸福度が世界一であることが喧伝された。荒川区の取り組みはこの時の幸福度世界一の取り組みに触発され、同様の考え方に基づいて事業展開されているものなのか、と考えていたが、活動年表にあるとおり、荒川区では平成18年に職員3名をブータンに派遣し、どのような思想背景があつて国民総幸福度世界一が実現されているか、調査されたのだそうであり、ブータンの国王夫妻が日本を訪問したのが、平成23年であることから、総幸福度調査において、ブータンの例は実際的には荒川区では参考例とはなっていないとの回答であつた。

いずれにしても、区政運営のドメインとして総幸福度調査を実施し、この考え方を全国に広める運動を展開していること自体に大きな意味があり、年々、幸福度が向上しているというような実績を積み重ねているわけではないが、今後の本市の自治体運営にあたっては、大いに参考とすべきであると共に、自治体運営に携わるすべての者が心すべき指標ではないかと考える。

行政視察報告書

報告者 黒井 浩之

○視察先 茨城県常総市

○視察項目 ①平成27年関東東北豪雨災害について
②議会としての災害対応について

○日時 平成30年2月1日(木) 午前10:00~11:30

○視察参加者 富樫正毅
中沢 洋
秋葉 雄
黒井浩之

○視察内容

平成27年関東東北豪雨災害について

- ・日光に551mm/24h、観測史上1位の豪雨を観測。
- ・線状降水帯が発生したが鬼怒川の線そのものに重なっていた。これまでこの雲の形は見たことがなかった。
- ・無堤地域の若宮での溢水から始まった。12:50三坂町で200mにわたって破堤。
- ・市の1/3にあたる40k㎡にわたって浸水。下のつくばみらい市まで浸水は広がった。
- ・市役所に対策本部を設置。しかし、電源喪失で足なし耳なし。職員個人の携帯で国・県と対応。しかし間もなくバッテリーがなくなりダメになった。翌日、NTTが発電機を持ってきくれた。水で何も手に入らない。
- ・タイムライン(避難スケジュール)を徹底しておけばよかった。
- ・避難指示が細かすぎて、逆に破堤地域の避難指示がもれていた。大失態と考えている。細かな出し方でなくて、旧町・学区単位で避難を呼びかけるのがいいと検証報告にある。初動ミスも厳しく指摘されている(検証報告はHPに掲載)
- ・情報伝達は細かくやったが、知らない人がいた。高齢者はどの程度わかっていたのか疑問。口伝えの伝達がやはり強い。住民の防災意識が差を分けた。
- ・床下浸水すると微粒子が入るので泥の掻き出しが必要。
- ・住民は近隣市に逃げたが、協定を結んでいなかったため近隣市にはご迷惑をかけた。
- ・避難所では汚物が流せなくて大変に困った。都市型災害で最悪なのは下水が流せないこと。10日間汚物処理ができなかった。
- ・支援に来て通れる道路がどこかわからない。広域避難行政がないままに避難するこ

とになってしまった。

- ・農業機械は壊滅。農作物もゴミ臭くて全部だめ・
- ・市役所の電源は今から階の上にあげると建て替えるぐらい金がかかる。
- ・水害は時間がある。時間で訓練できる。想定しておけば対応できる。災害対策本部の訓練、実動班訓練、市民の避難訓練など見せる訓練ではなく本当にやる人が訓練になる訓練をやる。
- ・災害時には市職員、消防団、警察、自衛隊など全然手が足りない。地元の安全は地元で守るとの気概が求められる。
- ・29年3月にあらゆる学校は、自ら積極的に能動的に動けと通知を出している。しかし、避難所の主体として学校が動くことは考えていない。

議会としての災害対応について

- ・当局と議員の間で相当混乱した。個別に問い合わせに来るので対応しないわけにはいかない。議員は議長と議会事務局に集約してくれるように決めた。
- ・常総市は通年議会制を採用。

○所感

- ・災害を経験した方ならではの意見は大変参考になった。本市においても他市の経験から学び、防災資機材の充実はもとより市民と一体となった防災訓練を積み重ねていくことが重要であると感じた。議会の関わり方についても学ぶ貴重な機会であり、本市にも取り入れていきたい。

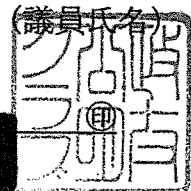
係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長

様式第12号

平成30年3月26日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名 (議員氏名)
 政友公明クラブ
 富樫正毅



政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	平成30年3月30日 ~ 平成30年4月4日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	東京都 早稲田大学 大隅記念タワー 東京都 TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター 東京都 葛飾区役所
内容(目的)	○地方議員研究会セミナー 「地域公共交通の基礎知識」 「ネウボラとアウトリーチ型家庭教育支援の融合で地域創生」 ○葛飾区の空家問題対応について
交通手段	自家用車・JR・飛行機・レンタカー
行 程	東京都 3月30日 10:00~12:30 1名参加 「地域公共交通の基礎知識」 於：早稲田大学 3月31日 14:00~16:30 4名参加 「ネウボラとアウトリーチ型家庭教育支援の融合で地域創生」 於：八重洲カンファレンスセンター 4月4日 11:00~12:00 1名参加 「葛飾区空家等対策計画について」 於：葛飾区役所

(※) 調査・研修の終了後は、「政務活動費調査・研修報告書」を提出して下さい。
 自家用車を利用した場合は、「車賃(ガソリン代)内訳書」を提出して下さい。



係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長

様式第13号

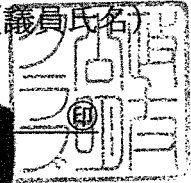
平成30年4月11日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名 (議員氏名)

政友公明クラブ

富樫正



政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	平成30年3月30日 ~ 平成30年4月4日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	東京都 早稲田大学 大隅記念タワー 東京都 TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター 東京都 葛飾区役所
内容(目的)	○地方議員研究会セミナー 3月30日 「地域公共交通の基礎知識」 3月31日 「ネウボラとアウトリーチ型家庭教育支援の融合で地域創生」 ○葛飾区の空家問題対応について 4月4日 「葛飾区空家等対策計画について」
調査・研修の概要	「地域公共交通の基礎知識」 1名参加 (黒井浩之) 「ネウボラとアウトリーチ型家庭教育支援の融合で地域創生」 4名参加 (富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之) 「葛飾区空家等対策計画について」 1名参加 (黒井浩之) 詳細は別紙資料のとおり

(※) 自家用車を利用した場合は、「車賃 (ガソリン代) 内訳書」を提出して下さい。



研修会参加報告書（その1）

報告者 黒井 浩之

○研修会名 地方議員研究会セミナー

○日時 平成30年3月30日（金）午前10:00～12:30

○研修参加者 黒井浩之 1名

○研修テーマ 「地方公共交通の基礎知識」

○研修内容

- ・改正地域公共交通活性化・再生法
- ・各団体及び公共交通事業者の役割を明確化した。特に国・県・市町村の役割分担は重要だが、責務ではなく努力規定。どこも誰がやるとは書いていない。
- ・地域公共交通網形成計画をいかにしっかりしたものにしていくか。地域公共交通会議の役割は重要。そして交通会議の事務局は市なので市がどこまでリードできるか。会議のあり方もいつまでも合意ができなくて決まらないのも困るので、多数決で決着させて次に進んでいけるように変えた。
- ・交通空白域の解消が命題になっているが、そもそも乗る人がいないから空白域になったもの。バスを新たに走らせても人は乗らない。採算ベースではない。最小限のルートにとどめておく。（市の中心部までいくのではなく、結節点までとどめておく）
- ・岡山県両備バスは、市内の黒字路線と郊外の赤字路線があり、土ゼロで頑張っていたが、市街地だけに新規の業者参入を認めたために、競争になって事業者の体力がなくなり、会社は撤退、郊外の赤字路線は廃止になってしまった。規制緩和で逆にあったものがなくなってしまった例。
- ・地域の公共交通は行政と地域住民で守らなければならない時にきている。
- ・スクールバス混乗は文部科学省が乗り気でない。デマンド交通が現実的。ただし、費用負担が問題。それを解決するためにワークショップを開いた。

○所感

- ・地域公共交通は事業者から守ってもらうのではない。地域社会のしくみとして住民が守っていかなければならない。ただし、税金を投入するには市民の一定の理解が必要。市民合意をどう作り上げていくかが行政の役割、との意見は大変参考になった。
- ・全国的な事例を見ても、制度としての特効薬はない。実施している地域はいずれも住民主導で地道に話し合いを続け、住民合意を得て、さまざまな工夫を凝らしながら地域の足を守っている。本市においても、単に廃止代替として路線を設置するのではなく、住民合意のもとで結論を得ていく過程が必要であると感じた。
- ・今後の本市における路線再編には住民参加のワークショップを開催するなどしていくことが十郎である。

研修会参加報告書（その2）

報告者 富樫 正毅

○研修会名 地方議員研究会セミナー

○日時 平成30年3月31日（土）午後2:00～4:30

○研修参加者 富樫正毅、中沢 洋、秋葉 雄、黒井浩之 4名

○研修テーマ 「ネウボラとアウトリーチ型家庭教育支援の融合で地域創生」

○研修内容

- ・フィンランドにおけるネウボラは世界での先進事例。ネウボラおばさんがいて、家族全員を幼少期から大人になるまで見守り、支援している。拠点センターに行くと、その家族を継続的に支える担当の保健師が常住している。
- ・日本では「出産・子育て支援期」「家庭教育支援期」「自立組織支援、一時生活支援期」の各ステージには支援策があるが、ステージが分断されていて一貫性がない。まして、男性に対する支援がない。
- ・システムズアプローチ（P19）：子どもに干渉している問題を明らかにして、問題を解決する。⇒家族を単位でみることは日本ではまだしていない。
- ・家庭教育支援に「訪問」という支援手法を継続していく。統一した人を一人入れておく。
- ・相談者が変わらないことが大事。スクールカウンセラー（SC）の予算を増やして拡充する。
- ・包括支援センターにSCの席を作るように提案している。
- ・現物支給や母子手当の支給を母子に足を運ばせるきっかけにしている。
- ・日本では医療機関と福祉機関、児童機関、また地域社会が分断されているため、児童虐待などの発見が遅れがちになっている。発生してから対応するのが現状。

○所感

- ・日本版ネウボラと本家フィンランドのネウボラは名前は同じでも内容が大きく違う。しかし、その現状における違いを理解し、少しでも切れ目のない支援にしていく努力が必要と感じた。
- ・男性に対する支援がないために問題を根本から解決しにくい場面があるとの指摘はそのとおりである。どうしたらよいかわからない場面に、行き詰って暴力に走ることがないようにしっかりと家庭内の各人にまで支援する体制があるということは目指すべき体制であると考えている。
- ・フィンランドのネウボラおばさんは、子どもが大きくなってもいつまでもその家族とつながりが続き一生の付き合いになるという。そしてネウボラおばさんはその家族の成長を見ることを生き甲斐として活動に励んでいるという。
- ・どんな素晴らしい制度を作ったとしても最後は、人間の気持ちの部分である。鶴岡市でも少しでも人と人のつながりを深められる人づくり、組織づくりが重要であると感じた。

研修会参加報告書（その3）

報告者 黒井 浩之

- 研修名 葛飾区空家等対策計画について
- 日時 平成30年4月4日（水）午前11:00～12:00
- 研修参加者 黒井浩之 1名
- 場所 葛飾区役所施設部内
- 説明者 葛飾区施設部 下村施設管理課長（29年度まで住環境整備課長）

○研修内容

- ・葛飾区は全国で初めて行政代執行を行なった。すぐそばをJRが走っていて、もし線路に倒壊したら、公共交通が止まってしまう、著しく公共の福祉を害すると考えられた。
- ・列車運行中に倒壊するなど大惨事が起きたら大変。不作為の責任が大きくなる。
- ・行政の責務は区民の安全を守ること。そのことを区民に理解してもらって代執行に税金を使うことも理解してもらう。時間をかけて理解してもらわないと反発される。（現在も様々な意見や批判が寄せられている）
- ・全国で初の事例になるので、各法令を読み込んで関係機関とも協議を重ねて実施した。区役所全体で取り組まないといけない。市長のリーダーシップが大きい。
- ・全国から話を聞きに視察者がたくさん来ていただいている。
- ・建築基準法第10条（保安上危険な建築物等に対する措置）による対応も同時に進める。
- ・区内の特定空家は36棟。まず「勧告」し、固定資産税減免を排除する。（都に通知）
- ・次に「命令」をするが、従わない場合は50万円以下の過料となる。
- ・平成28年3月に代執行実施。費用は185万。払わない場合は、国税徴収法と同じで差し押さえができる。代執行後は収納対策課に引き継いで対処は頼んだ。
- ・葛飾区は生活保護世帯比率が都内でも高く、老朽化した小さな家に住んでいる高齢者多い。亡くなるとそのまま空家になってしまう。空洞化ではなくスポンジ化が進行中。

○所感

- ・初の代執行に取り組んだ担当課長は空き家特措法はもちろん建築基準法や民法などなど各法令に通じていて、相当勉強して代執行に踏み込んだ様子が感じられた。やはり、他に方法はなかったのか、など様々な団体から反発や批判を受けているとのことだったが、大惨事を避けるために行政の責務として行った、との言葉に批判を恐れず進んでいる姿勢を感じた。
- ・30年3月に「葛飾区空家等対策計画」を策定。2年前の代執行を節目としてさらに今後を展望する計画づくりを意識したとのこと。つまり、法令解釈や手順を織り込んで、誰が担当者になっても手順に沿って進めていける実行計画にしたとのことだった。行政にはひな形をなぞるような計画書が多い中で、そうではなくマニュアルのような内容になっている。本市でも現在空家等対策計画の策定が進められているが、大いに参考にすべき内容である。
- ・本市でも庁内一体となって部課の連携を図って、などよく言われるが一体となった取り組みにはやはりトップのリーダーシップが重要だと感じさせられた。